

ケーススタディ 3 市アンケート調査結果

1. アンケート調査実施方法

(1) 調査方法

- ・ 各ケーススタディ対象地区において、約 200 世帯を対象にアンケート調査票を配布¹した。回収は郵送で行った。
- ・ 配布の際、調査票を 1 世帯あたり 3 票入れ、各世帯最大 3 名（できるだけ世代の離れた方）の回答を依頼した。

(2) 調査期間

2008 年 8 月～9 月

(3) 回収

- ・ 対象世帯数×3 通を配布数とする。
- ・ 世帯規模（人/世帯）の小さい薩摩川内市では世帯あたりの人数が相対的に少ないために、回収率が低くなっている。

市	地区	人口	世帯	人/世帯	高齢化率	対象世帯数	配布数	回収数	回収率
上越市	安塚	3,277	1,169	2.80	37.5%	200世帯	600	178	29.7%
	浦川原	4,067	1,184	3.43	30.3%	200世帯	600	190	31.7%
	高土	1,672	455	3.67	28.4%	200世帯	600	170	28.3%
浜松市	佐久間	5,336	2,168	2.46	46.5%	183世帯	549	245	44.6%
	熊	789	269	2.93	43.7%	270世帯	810	302	37.3%
	春野	5,866	1,962	2.99	39.2%	169世帯	507	281	55.4%
薩摩川内市	大馬越	782	340	2.30	39.2%	210世帯	630	183	29.0%
	鹿島	546	335	1.63	49.6%	210世帯	630	69	11.0%
	西山	192	121	1.59	59.4%	130世帯	390	95	24.4%
合計		22,527	8,003			1,772世帯	5,166	1,713	33.2%

¹上越市安塚区及び浜松市 3 地区については自治会等の協力を得て各戸に配布、薩摩川内市 3 地区は市の文書発送システムを通じて各戸に配布、上越市浦川原区及び高土地区については住民基本台帳より 200 世帯を無作為抽出し、郵送により配布した。

(参考) 対象三都市全体図

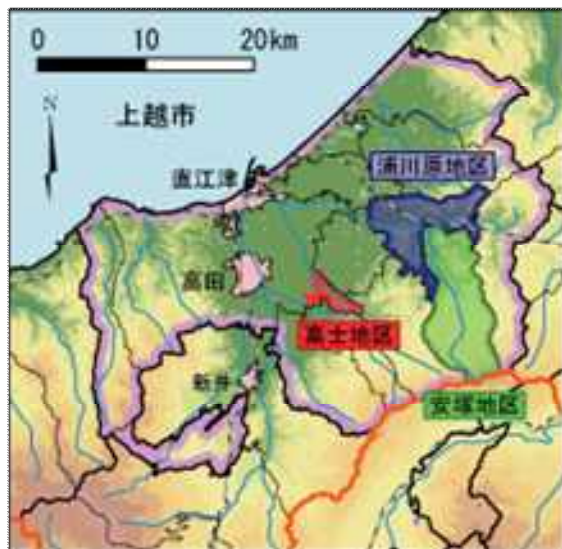
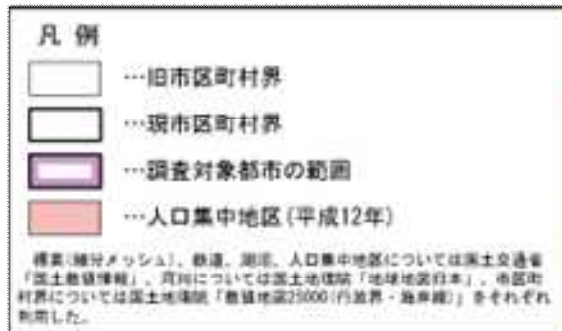


図 上越市 (安塚地区・蒲川原地区・高士地区)

図 浜松市 (佐久間地区・鷹地区・春野地区)



図 藤原川内市 (大馬藪地区・鹿島地区・西山地区)

2. アンケート調査結果

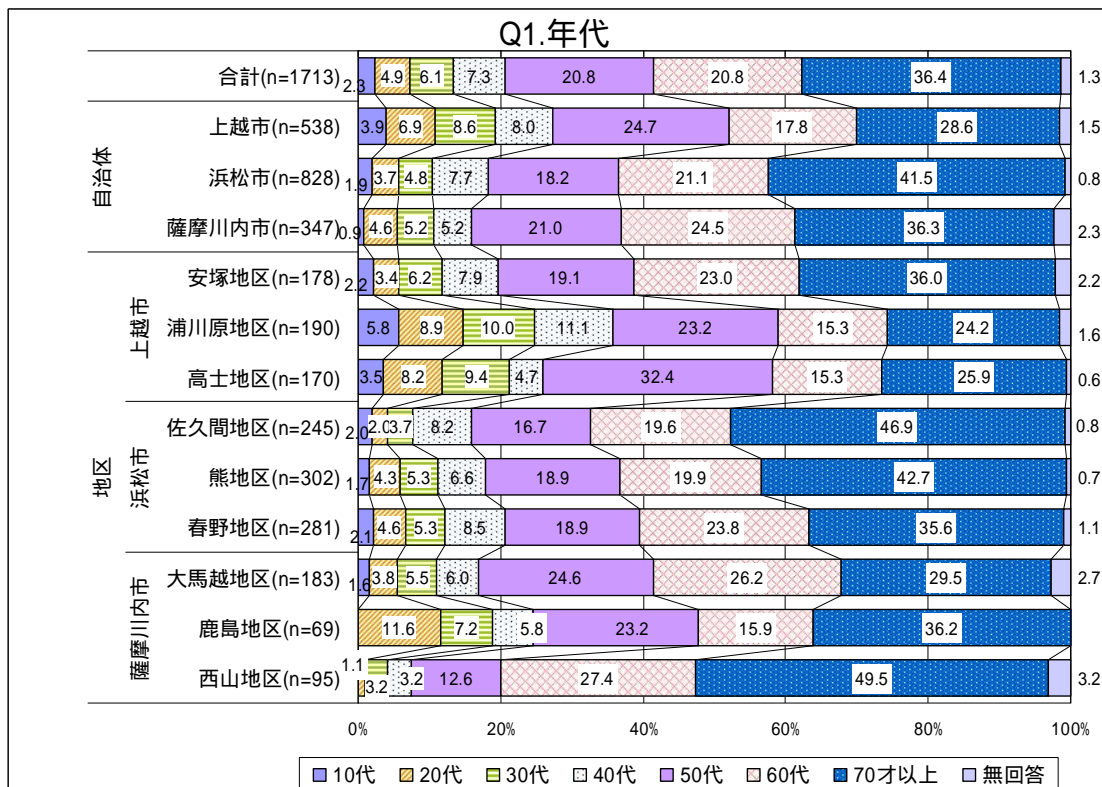
(1) 回答者属性

- ・ 回答者は50代以上が約8割と多く、男女比は約半数であった。また、高齢者が多いために、無職の人が多くみられた。
- ・ 高齢者が多いことを受け、居住歴はいずれの地域でも40年以上との回答が多かったが、薩摩川内市は5年未満との回答も1割以上あった。また、今後の居住予定については約7割が今後ずっと住み続ける予定との回答であったが、10~20代では約2割であった。

年代

- ・ 高齢者の割合が全体的に多く、特に薩摩川内市西山地区では50代以上が約9割を占めた。

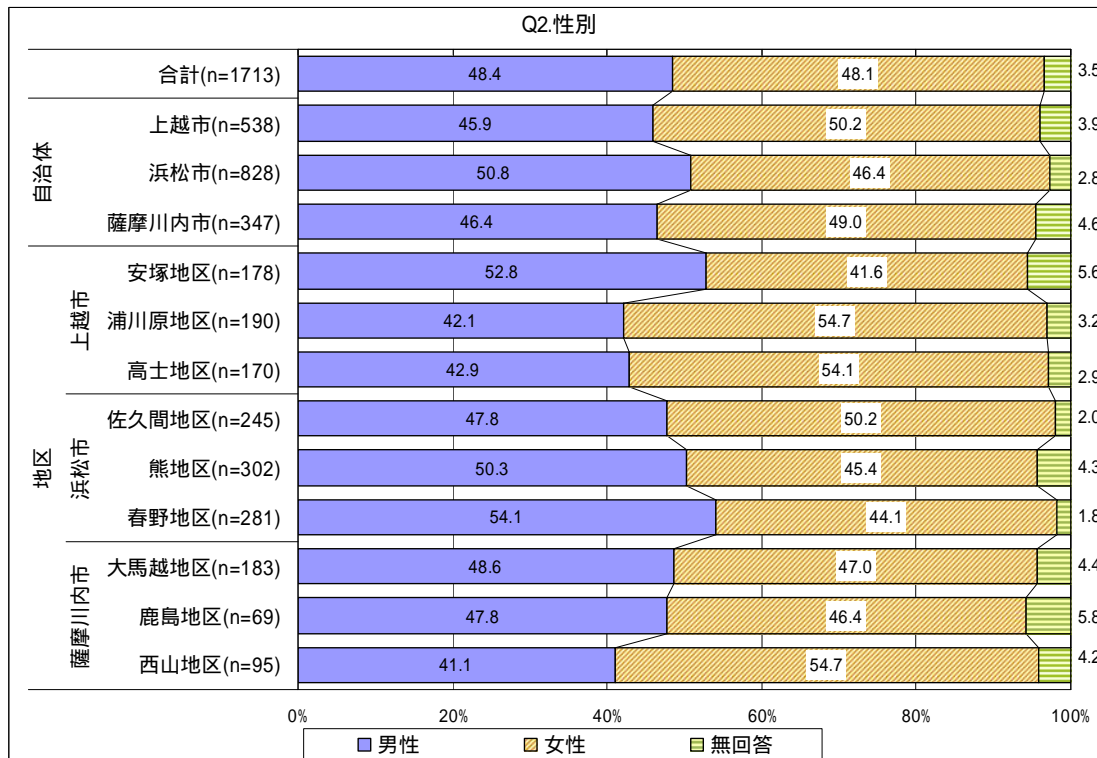
	全体	Q1.年代								無回答
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上		
合計	1713	40	84	104	125	357	356	624	23	
自治体										
上越市	538	21	37	46	43	133	96	154	8	
浜松市	828	16	31	40	64	151	175	344	7	
薩摩川内市	347	3	16	18	18	73	85	126	8	
地区										
上越市安塚地区	178	4	6	11	14	34	41	64	4	
上越市浦川原地区	190	11	17	19	21	44	29	46	3	
上越市高土地区	170	6	14	16	8	55	26	44	1	
浜松市佐久間地区地区	245	5	5	9	20	41	48	115	2	
浜松市熊地区	302	5	13	16	20	57	60	129	2	
浜松市春野地区	281	6	13	15	24	53	67	100	3	
薩摩川内市大馬越地区	183	3	7	10	11	45	48	54	5	
薩摩川内市鹿島地区	69	0	8	5	4	16	11	25	0	
薩摩川内市西山地区	95	0	1	3	3	12	26	47	3	



性別

- 性別はいずれの地区も男女約半数であった。

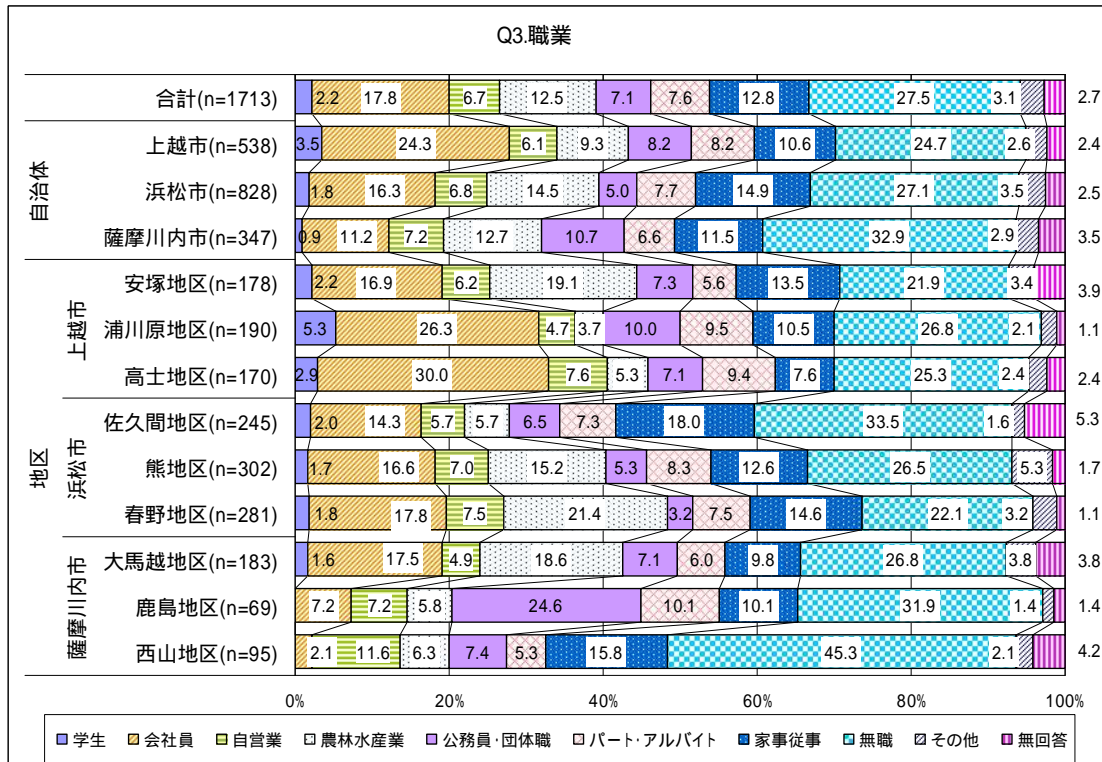
	全体	Q2.性別		
		男性	女性	無回答
合計	1713	829	824	60
自治体				
上越市	538	247	270	21
浜松市	828	421	384	23
薩摩川内市	347	161	170	16
地区				
上越市安塚地区	178	94	74	10
上越市浦川原地区	190	80	104	6
上越市高土地区	170	73	92	5
浜松市佐久間地区地区	245	117	123	5
浜松市熊地区	302	152	137	13
浜松市春野地区	281	152	124	5
薩摩川内市大馬越地区	183	89	86	8
薩摩川内市鹿島地区	69	33	32	4
薩摩川内市西山地区	95	39	52	4



職業

- ・ 「無職」との回答がいずれの地域でも多く、次いで「会社員」、「家事従事」、「農林水産業」との回答が多くみられた。

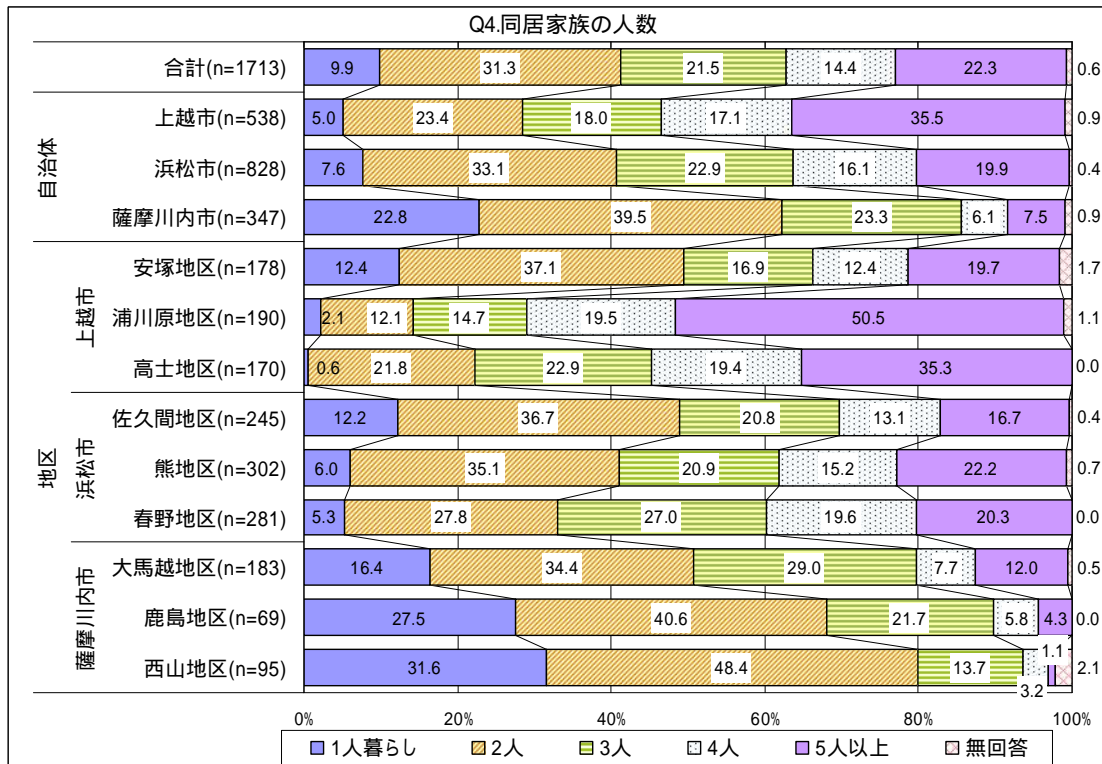
	全体	Q3 職業										
		学生	会社員	自営業	農林水産業	公務員・団体職	パート・アルバイト	家事従事	無職	その他	無回答	
合計	1713	37	305	114	214	122	131	220	471	53	46	
自治体	上越市	538	19	131	33	50	44	44	57	133	14	13
	浜松市	828	15	135	56	120	41	64	123	224	29	21
	薩摩川内市	347	3	39	25	44	37	23	40	114	10	12
地区	上越市安塚地区	178	4	30	11	34	13	10	24	39	6	7
	上越市浦川原地区	190	10	50	9	7	19	18	20	51	4	2
	上越市高士地区	170	5	51	13	9	12	16	13	43	4	4
	浜松市佐久間地区地区	245	5	35	14	14	16	18	44	82	4	13
	浜松市熊地区	302	5	50	21	46	16	25	38	80	16	5
	浜松市春野地区	281	5	50	21	60	9	21	41	62	9	3
	薩摩川内市大馬越地区	183	3	32	9	34	13	11	18	49	7	7
	薩摩川内市鹿島地区	69	0	5	5	4	17	7	7	22	1	1
	薩摩川内市西山地区	95	0	2	11	6	7	5	15	43	2	4



同居家族の人数

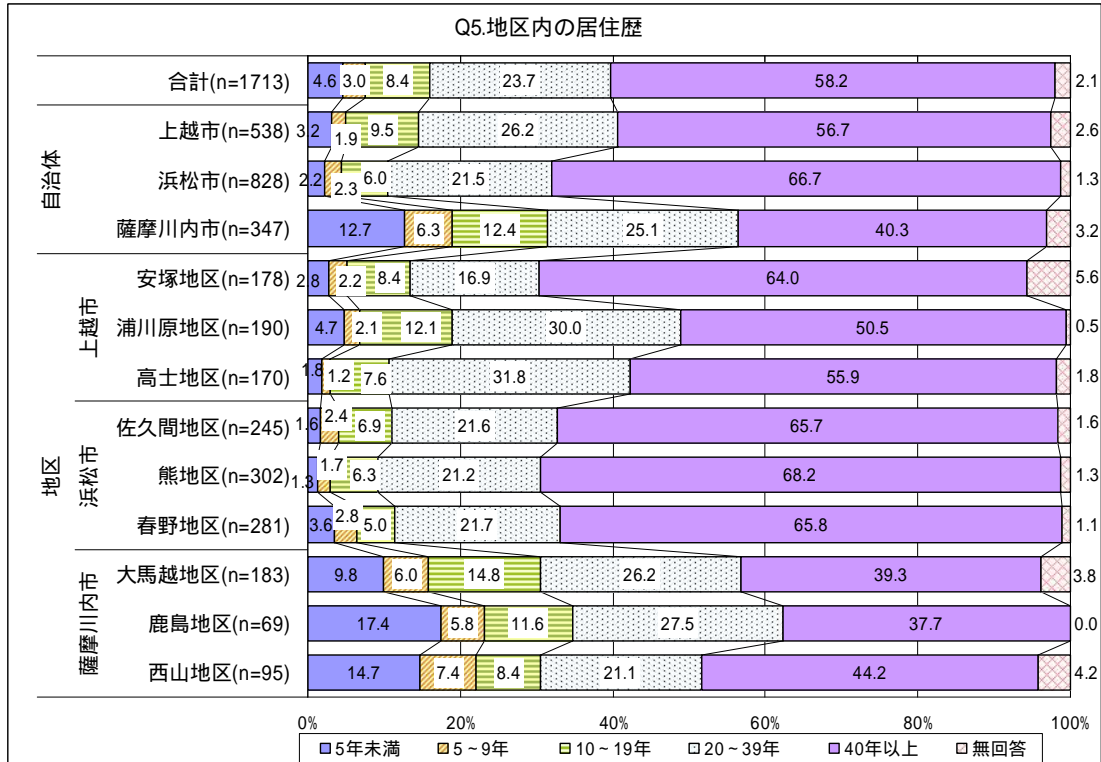
- 同居家族の人数は、上越市が「5人以上」との回答が多かったのに対し、薩摩川内市では「1人暮らし」との回答が多くみられた。

		全体	Q4.同居家族の人数					無回答
			1人暮らし	2人	3人	4人	5人以上	
合計		1713	169	537	368	246	382	11
自治体	上越市	538	27	126	97	92	191	5
	浜松市	828	63	274	190	133	165	3
	薩摩川内市	347	79	137	81	21	26	3
地区	上越市安塚地区	178	22	66	30	22	35	3
	上越市浦川原地区	190	4	23	28	37	96	2
	上越市高土地区	170	1	37	39	33	60	0
	浜松市佐久間地区地区	245	30	90	51	32	41	1
	浜松市熊地区	302	18	106	63	46	67	2
	浜松市春野地区	281	15	78	76	55	57	0
	薩摩川内市大馬越地区	183	30	63	53	14	22	1
	薩摩川内市鹿島地区	69	19	28	15	4	3	0
	薩摩川内市西山地区	95	30	46	13	3	1	2



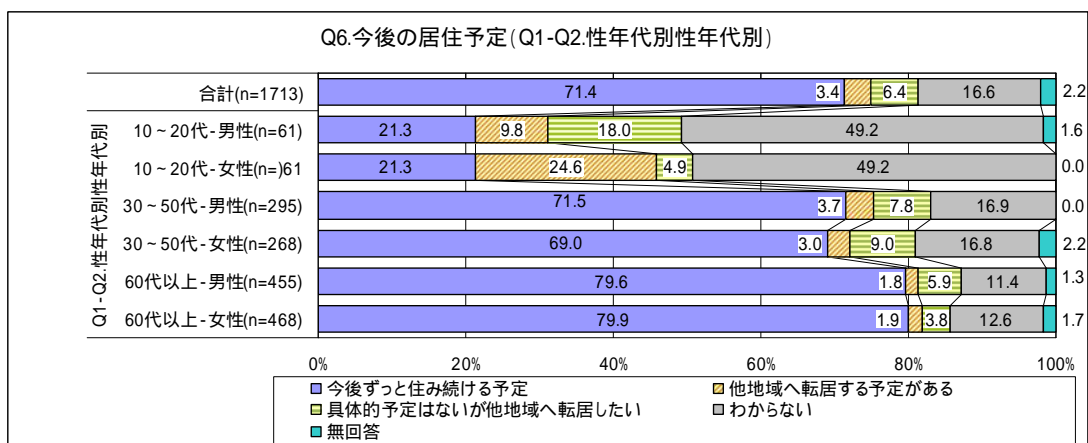
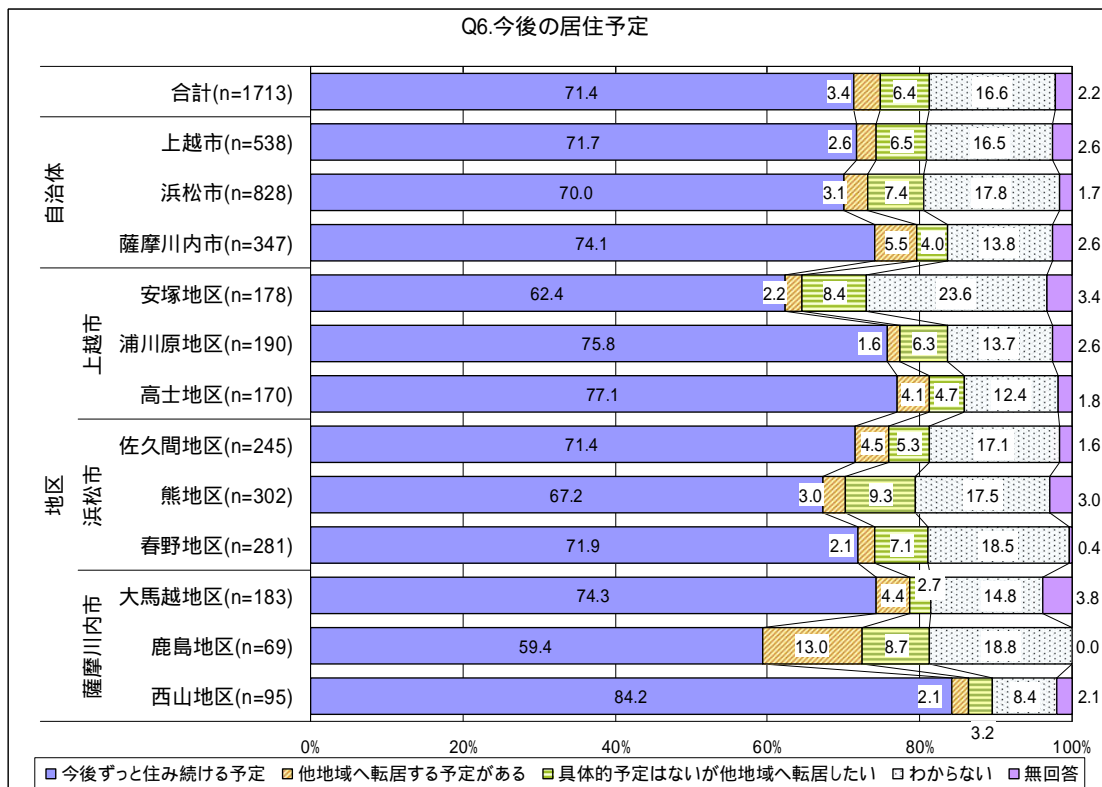
地区内居住歴

- ・ 高齢者の回答者が多かったために「40年以上」との回答が多く、上越市、浜松市では過半数を超えた。一方で、薩摩川内市については、「5年未満」との回答も他の2市に比べて多かった。



今後の居住予定

- ・ 6~8割が「今後ずっと住み続ける予定」との回答であった。ただし、薩摩川内市鹿島地区で、「他地域へ転居する予定がある」、「具体的予定はないが他地域へ転居したい」との回答が2割を超えており、他地域に比べて転居意向がある人が多くみられた。
- ・ 性年代別にみると、10~20代では「今後ずっと住み続ける予定」との回答は2割にとどまり、「他地域へ転居する予定」、「具体的予定はないが他地域へ転居したい」という転居意向のある回答があわせて3割程度、半数近くが「わからない」との回答であった。

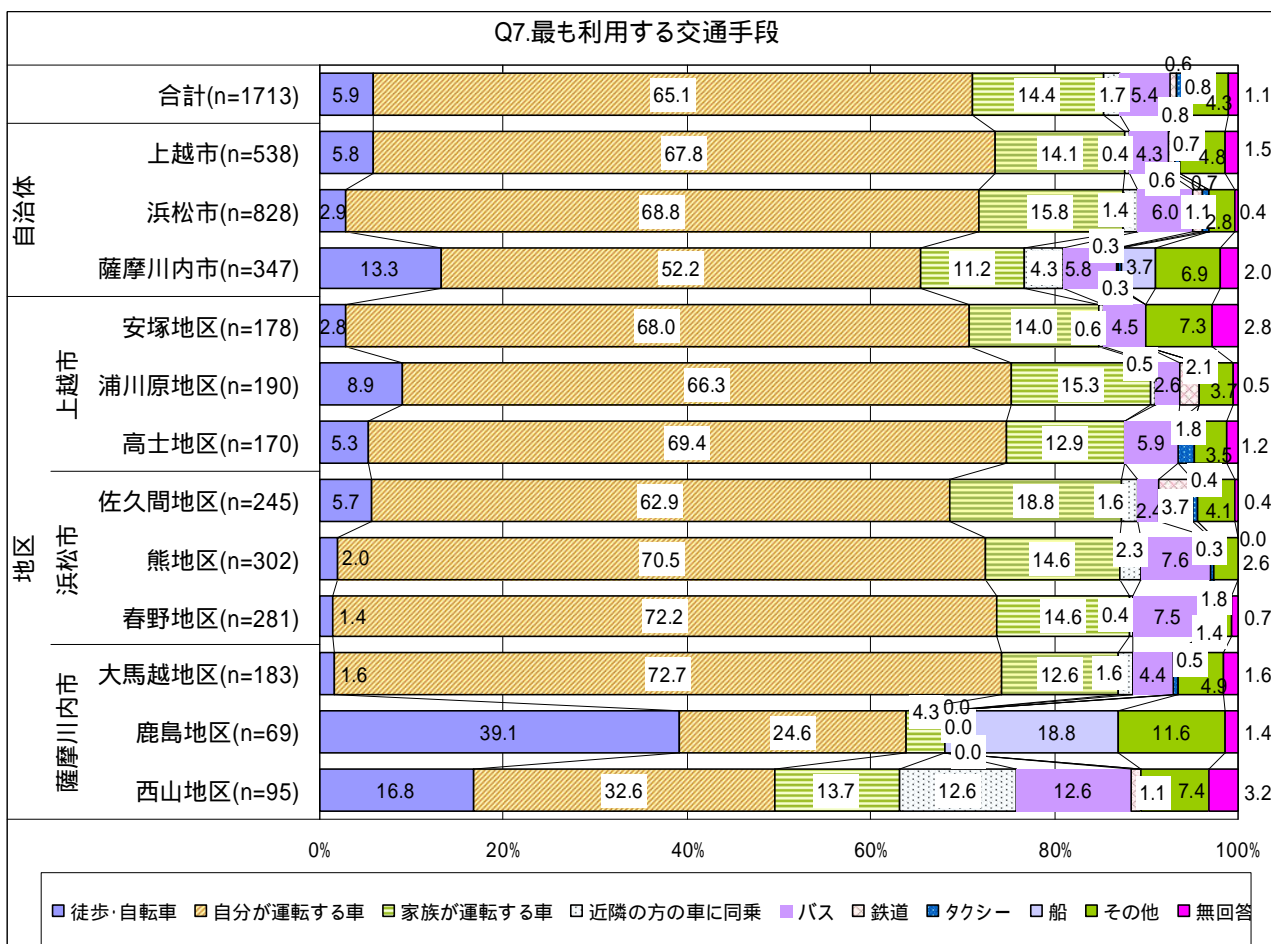


(2) 交通手段の利用状況

- ・ 最も利用する交通手段は、自分又は家族が運転する車との回答が大半の地区で約8割を占め、薩摩川内市の島嶼部については徒歩・自転車との回答が他に比べて多くみられた。
- ・ 最も利用する交通手段の利用頻度は、地区によって大きな差が見られ、上越市が他に比べて頻度が高く、逆に薩摩川内市西山地区では利用頻度が低かった。
- ・ 公共交通の利便性については、バスと船についてはいずれの地区でも不便との回答が多く、鉄道については鉄道駅が近くにあるかないかで回答結果の差が顕著であった。

最も利用する交通手段

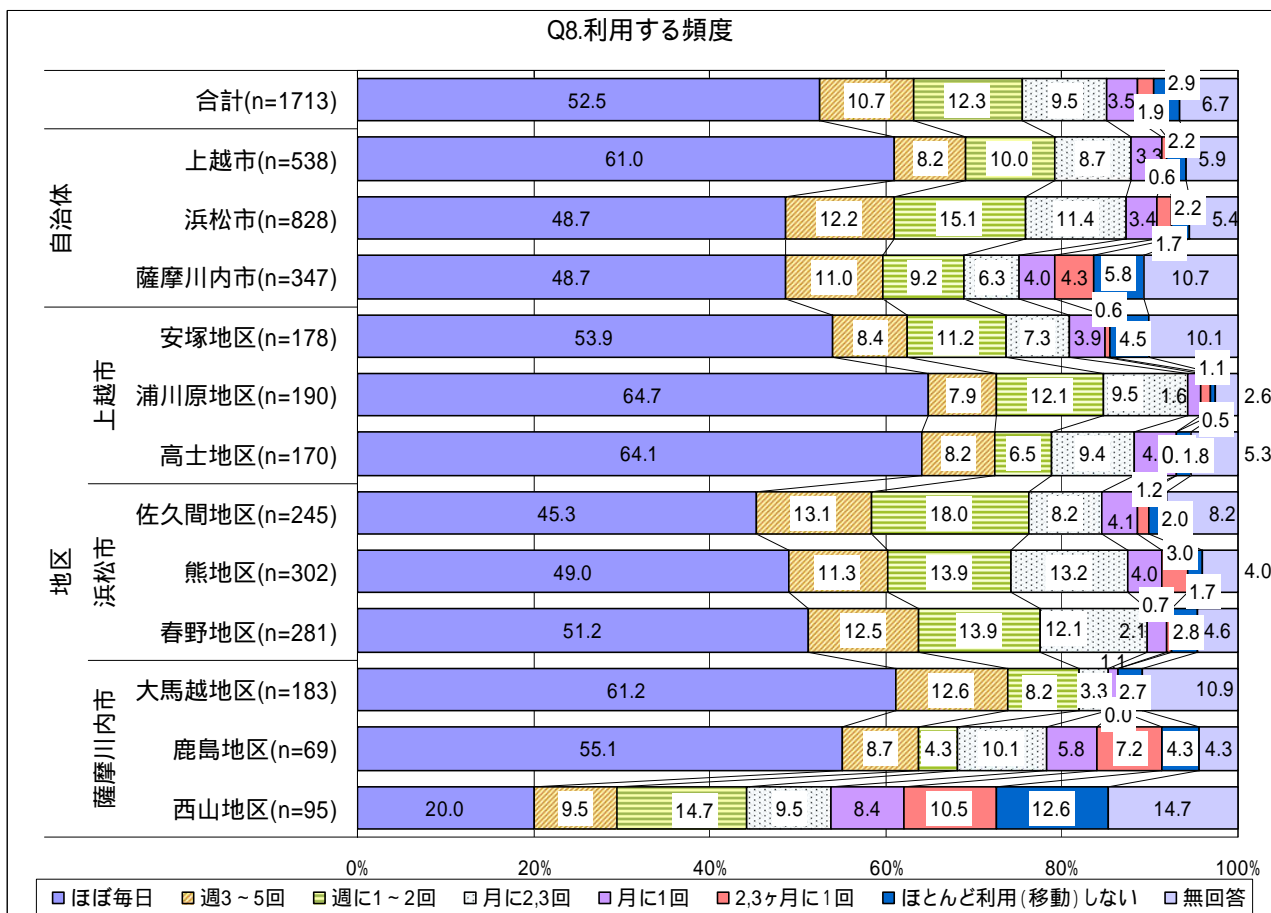
- ・ 島嶼部にある薩摩川内市の鹿島地区、西山地区を除いた7地区で「自分が運転する車」との回答が約6~7割と大半を占め、次いで「家族が運転する車」との回答が約1~2割であった。
- ・ 薩摩川内市鹿島地区では「徒歩・自転車」との回答が42.9%と最も多くみられた。
- ・ 「その他」の回答としては、バイク(スクーター)、電動車等の回答がみられた。



「船」の選択肢は薩摩川内市の鹿島地区と西山地区のみ。

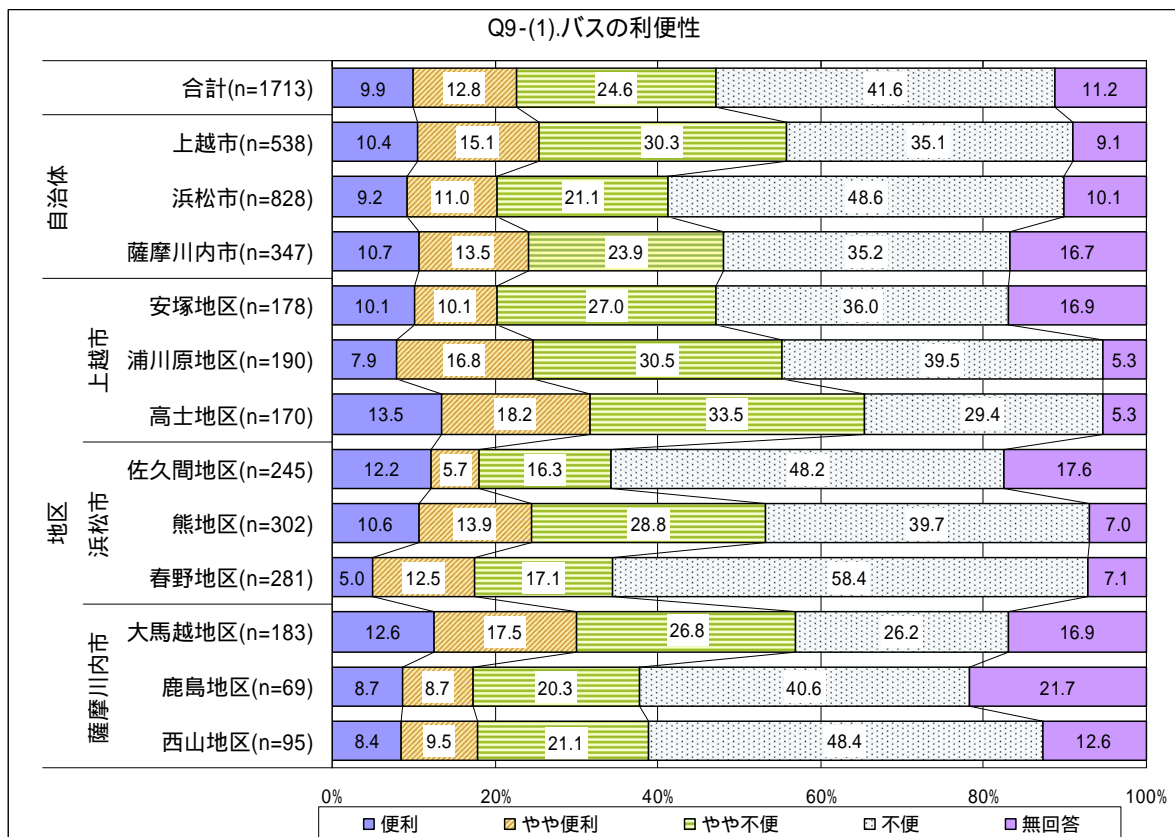
最も利用する交通手段の利用頻度

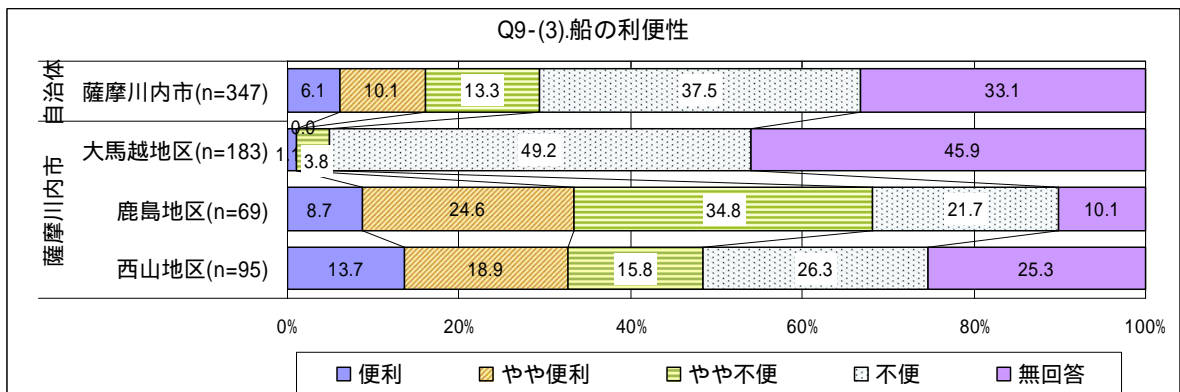
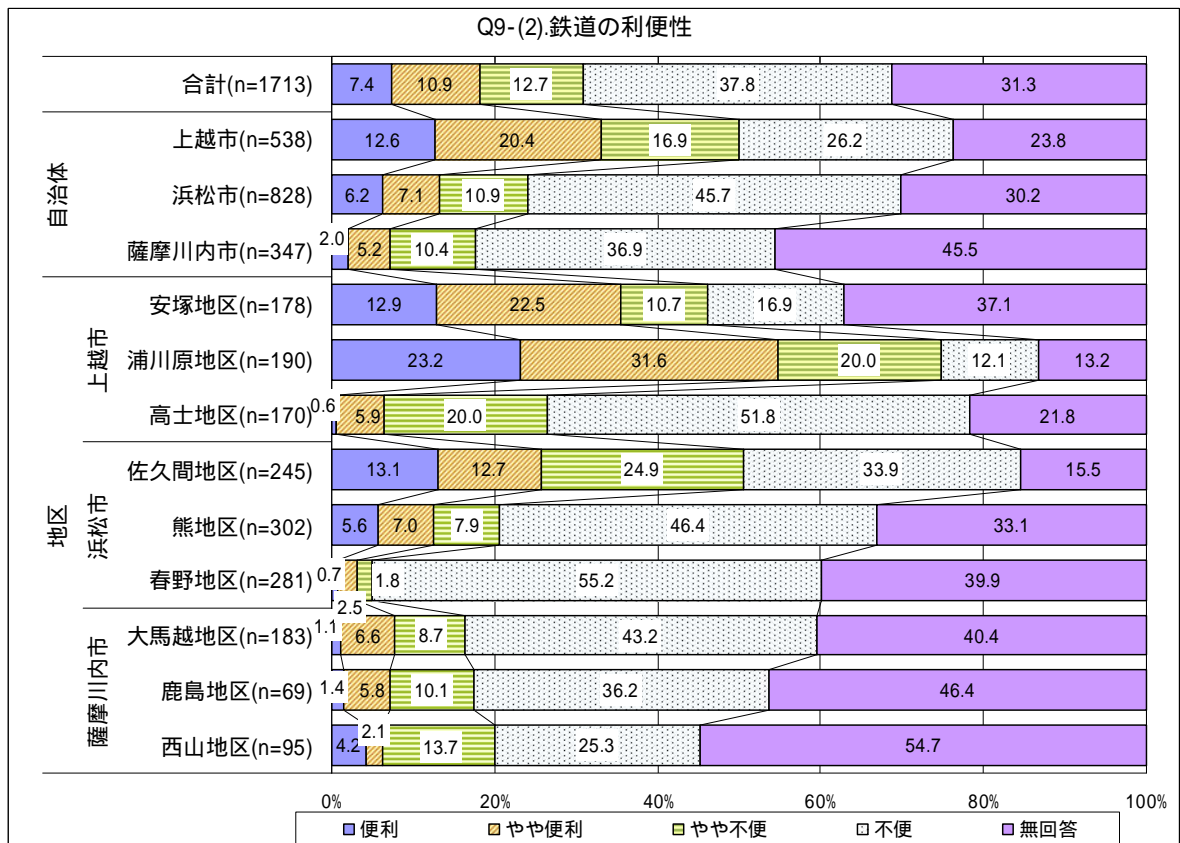
- ・ 全体としては、過半数が「ほぼ毎日」利用するとの回答であった。
- ・ 地域によってばらつきがみられ、上越市が他の2市に比べて利用頻度が高くなっており、逆に薩摩川内市西山地区では「ほぼ毎日」が20.7%と他の地区に比べて少なく、移動頻度が低いことがわかった。



地域内の公共交通の利便性

- ・ バスについては、全体では、「不便」あるいは「やや不便」との回答が 6~7 割を占めた。上越市高土地区、薩摩川内市大馬越地区で、他の地区に比べて「便利」あるいは「やや便利」との回答が 3 割強と若干多くみられた。
- ・ 鉄道については、鉄道路線の有無が大きく影響するため地区によって大きな差が出ており、上越市、浜松市、薩摩川内市の順に「便利」あるいは「やや便利」との回答が多くなっている。またそもそも鉄道駅がない地区の場合は、無回答が多くみられた。上越市内では浦川原地区で「便利」あるいは「やや便利」との回答が過半数を占めたのに対し、高土地区では 1 割未満と少なかった。浜松市では、佐久間地区で調査地点が 2 集落（駅周辺、中山間地）であったために、「便利」と「不便」との回答が大きく分かれた。薩摩川内市では無回答が多く、回答があった中でも「不便」との回答が多かった。
- ・ 船については、島嶼部の鹿島地区、西山地区でいずれも約 3 割が「便利」あるいは「やや便利」との回答であり、無回答を除いても、過半数に満たなかった。





Q3は薩摩川内市の鹿島地区と西山地区のみ。

(3) 日常生活の行動範囲

- ・ 薩摩川内市の島嶼部については、(2)の交通手段の利用状況からもわかるように、日常生活において徒歩の範囲内で生活している状況がわかった。
- ・ 他の地区については、買物については、合併前の市町村内との回答と、合併後の市内との回答に2分された。病院と学校・事業所については上越市安塚地区、浦川原地区では合併後の上越市内、上越市高士地区、浜松市佐久間地区では合併前の旧市内を行動範囲とする傾向であった。

日常生活でよく利用する施設の位置

- ・ 薩摩川内市の島嶼部では「徒歩の範囲」との回答が、買物、病院、学校・事業所の全てで多くみられた。
- ・ 上記2地区以外の地区については、買物については、「合併前市町村区域内」、「現(合併後)市内」との回答が概ね1対1の割合であった。また、「市外」との回答は、上越市ではほとんどなかったが、浜松市佐久間地区、春野地区、薩摩川内市鹿島地区ではみられた。
- ・ 病院については、上越市安塚区、浦川原地区、薩摩川内市大馬越地区で「市内」との回答が多く、上越市高士地区、浜松市佐久間地区では「合併前市町村区域内」との回答が多くみられた。また、浜松市、薩摩川内市で「市外」との回答が1割前後見られた。
- ・ 学校・事業所については、「通勤・通学はしていない」との回答が多くあった。通勤・通学者の中では浦川原地区では「現(合併後)市内」との回答が多く、上越市高士地区、浜松市の3地区、薩摩川内市大馬越地区では「合併前市町村区域内」との回答が多くみられた。

